

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育の理念や基本的な概念の発生を歴史的展開の中で理解し、現代の教育課題を読み説く際の指針として活用する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育学の諸概念ならびに教育の本質及び目標を理解している。 2) 教育を成り立たせる子ども、教員及び課程等の相互関係を理解している。 3) 課程及び社会による教育の歴史を理解している。 4) 近代教育制度の成立及び展開を理解している。 5) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 6) 課程及び子どもに関わる教育の思想を理解している。 7) 学校及び学習に関わる教育の思想を理解している。 8) 代表的な教育化の思想を理解している。
授業の概要	<p>近現代日本の学校教育の歴史を学び、そこから生まれてきた教育の理念や基本的な概念を学ぶ。それと同時に現代日本の教育現場の諸問題を検討しながら、そこに教育の理念や基本的な概念を確認してゆく。具体的には近代日本の歴史を概観し、自由と統制、個性と平等といった問題を検討する。また、学校現場の諸課題として、小学校英語教育、習熟度別授業、アクティブラーニング、「生命に対する畏敬の念」、障害を持つ生徒の教育権、いじめ問題、学級崩壊、ゼロトレランスなどの問題を検討する。</p>
授業計画	<p>第1回 教育の必要性 講義概要説明、理想の教育・教師について教育原理とは、講義計画、評価の方法、心構えの確認。その後、「理想の教師」というテーマで学生間の意見交換を行う。 【事前学習】「理想の教師」というテーマを400字程度でまとめる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第2回 子育てと教育 ―成長・発達と教育― 乳幼児期から人格の確立期に至るまでの教育の関わりについて説明する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第3回 子ども・家庭・社会 ―成長・発達と教育― 乳幼児期から人格の確立期に至るまでの教育の関わりについて説明する。 児童中心主義カリキュラム(デューイ)、教科中心主義カリキュラム(ブルーナー)の成立過程とその思想について学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第4回 近代日本の学校教育の歴史(明治期、教育勅語への道、国民皆学、教育の平等と個性に応じた教育) 1872年の学制から1890年の教育勅語体制の成立までの近代学校制度確立までの歴史を学ぶ。現在の総合的な学習との比較と展望と今後の可能性を考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第5回 現代日本の学校教育の歴史と制度①(詰め込み教育七五三～) 戦後教育改革から無着成恭の『山びこ学校』までの解説する。本当の民主教育とはどのようなものかを考える。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第6回 現代日本の学校教育の歴史と制度②(教育内容の現代化 四六答申、臨教審答申、教育再生会議) 日本における教育内容の現代化とその流れについて学ぶ。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第7回 学習指導要領について(その歴史と変遷の背景) 2008年の学習指導要領の改正とその前提となる学力論争を解説する。PISAテスト、ゆとり教育について、議論する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第8回 教育課程をめぐる問題(教科書検定と歴史教育問題、教育行政の中立性) 学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。当初、「試案」であったものが法的拘束力を持つようになっていく過程も確認する。そして、教科書検定を検討し、教育行政の中立性という原理を確認する。 【事前学習】テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。学習指導要領とはどのようなものなのかを、その歴史をさかのぼり確認する。</p> <p>第9回 教育方法をめぐる問題(アクティブラーニング、習熟度別授業など)理解する。 習熟度別授業の有効性をデータに基づいて検証する。またアクティブラーニングという考え方を理解する。</p>

	<p>【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第10回 教育方法をめぐる問題（平和教育について）を理解する。 戦後沖縄の平和教育の歴史と取り組み事例の紹介と、児童虐待、いじめ問題などを絡めながら討議する。</p> <p>【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第11回 教師として人としての生き方—学校組織と各自の役割— 学校で働くことの意味、建学の精神、教育観、学校経営[大廈の材は一丘の木に非ず] 【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第12回 特別支援教育の課題（『五体不満足』、「合理的配慮」を考える） 特別支援教育の理念を乙竹洋匡氏の著書を通じて学ぶ。また現在の特別支援教育の制度について確認する。 【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第13回 生徒指導の課題（「いじめ問題」を考える） 旭川いじめ女子中学生凍死事件という事例を検討し、いじめの構造を理解し、さらには児童虐待について教師としてどのように対応するかを考える。 【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第14回 子どもの貧困と学力、学ぶ権利 子どもの貧困の現状を国と沖縄県の比較と分析を行い、教育の世界における改善策と貧困問題の解決策を探る。 【事前学習】 テーマに関する用語を辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第15回 これからの教育 これまでの講義内容から、国の制度変革と教育改革を俯瞰しながら、沖縄県のこれからの教育のあるべき姿を考える。内容の確認のための小テストを含む。教員採用試験の動向も検討する。 【事前学習】 第1回から第14回までのレジュメを各60分ほど再読する。 【事後学習】 テスト問題の復習を行う。</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。
参考書	<p>各回の授業で提示する。</p> <p>『沖縄で教師をめざす人のために』（上地完治・他編、共同出版）</p> <p>『やさしい教育原理 新版補訂版』（田嶋一・他著、有斐閣アルマ）</p> <p>『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省）</p>
評価方法	<p>平常点（50%）、テスト（30%）、レポート（20%）。</p> <p>平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。
オフィスアワー	調整中
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 学校の先生はブラック職業ですか？ 教員の役割、職務内容を理解して、子どもの成長を喜び、子どもとともに成長できる教員になるための心構えをつくる。</p> <p>【到達目標】 ○現代の教員に求められる基礎的な資質能力や教員の職務の全体像及び研修の意義や制度上の位置付けについて理解することができる。 ○教員に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解することができる。 ○校内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解することができる。</p>
授業の概要	<p>教職が「ブラックだキツイ仕事だ」と言われて久しい。学校現場でも人材不足等の課題があることも事実である。この問題に向き合うためには、学生が現在持っている教職への興味・関心と教員を目指す上で必要な課題についての自己認識を深めることが最も重要なことだと考える。</p> <p>この講義では、教職の意義や教員の職務内容等を学び、公務員として、教員としての制度上の位置づけや身分保障、学校における役割等について、学生の主体的な参加によって授業を創りたいと考えている。授業の前半は講義を主とし、後半では、前半の講義を受けての学生の議論、報告、作業を行う。学生の積極的・主体的な取り組みが求められる。</p>
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録） アイズプレイク、講師自己紹介 講義の概要説明（授業の目的、シラバス、授業の方法、テキスト、登録） 登録調整をし、教職の意義を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝え、授業の目的や内容、進め方、テキストについて説明する。 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する。</p> <p>第2回 現代社会における教職の意義—なぜ教員を目指すの？— 教職は子どもの生きる力を培い、充実した人生と社会生活をもたらすとともに、国家社会の次代の担い手を育成するという使命をもつ職業であることを解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>第3回 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。第1回目の資料を読み、理解すること [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する 教員の種類・役割と仕事の性格 現行の教育制度について学校教育法第1条（1条校）をもとに解説し、教員の種類と教科指導・教科外指導等について整理し、職場環境についても解説する。＜講義・グループワーク＞ [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。1条校をしらべておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第4回 教員生活の1年間 4月から3月までの一年間を学級経営の視点や学年・学校行事から俯瞰し、教員生活のあり様について解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>第5回 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。学校行事の種類についてしらべておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する 教員の仕事と専門性Ⅰ（子ども理解と学級経営） 子ども理解と学級経営は、担任と子どもとの関係性構築の上でも重要なことである。「子どもを理解するとはどのようなことか」「望ましい学級経営とはどのようなものか」について考える。＜講義・グループワーク＞</p> <p>第6回 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。学級経営とは何か、事前に調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する 教員の仕事と専門性Ⅱ（教科指導） 教員の主たる仕事は、教科を指導することである。児童生徒にとって「わかる授業」「楽しい授業」を創るためには専門性に裏付けられた教材開発と授業展開、評価方法が求められる。授業事例を紹介しながら、「教科指導とは何か」について解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>第7回 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教材開発とは何か、調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する 教員の仕事と専門性Ⅲ（特別活動・生徒指導） 特別活動とは学校生活の中で児童・生徒による集団的な取組みを総称し、生徒指導は児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。講義では、学生の経験を報告し合いながら、特別活動と生徒指導について整理する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>第8回 [事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。特別活動の特色を調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する 教員の仕事と専門性Ⅳ（進路指導・教育相談）</p>

	<p>キャリア教育の視点に立脚した進路指導や児童生徒の学校生活における学習相談、生活相談等を包括した教育相談について解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。キャリア教育、進路指導、教育相談の違いを調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第9回 教員の仕事と専門性 V (保護者・地域・関係機関との連携) 家庭教育支援が求められている昨今、保護者・地域・関係機関との協力と連携は益々重要視されている。事例を紹介しながら、成果と課題を解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。沖縄県の家庭教育支援について調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第10回 学校における教職員の連携・協働 チーム学校とは、校長のリーダーシップのもとで、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして児童生徒に必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校のことである。事例を紹介しながら解説する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。チーム学校の意味を、文科省のHPで調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第11回 教員の職場環境 校務分掌を含む学校の基本的な組織について概説し、教育機関としての学校のあり方について解説する。＜講義＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。公務分掌の種類について事前に調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第12回 教員の任用と服務 教員の服務・身分保障と研修について、主に、地方公務員法と教育公務員特例法の関連条文を紹介し、事例を紹介しながら解説する。＜講義＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。地方公務員法、教特法の概略をつかんでおくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第13回 教員に求められる資質能力 教員に求められる資質能力(教職に対する強い情熱、教育の専門家としての確かな力量、総合的な人間力)を文科省の関連資料をもとに議論し、整理する。＜講義・グループワーク＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教員の資質能力について、事前に調べておくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第14回 教員養成と教職課程 現行の日本の教員養成制度と教職課程について概説し、教職大学院の設置状況、これをめぐる諸問題についても解説する。＜講義＞</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。教職課程の概要をつかんでおくこと [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p> <p>第15回 教員の採用選考・まとめのテスト 全国的な教員採用選考試験の動向、選考方法等について解説する。＜講義＞ 全範囲のまとめのための小テストを行う。</p> <p>[事前学習]教職の意義のシラバスをよく読むこと。採用試験のあらましを調べておく [事後学習]講義内容をノートにまとめ、資料等は適宜ノートに張り付ける。疑問点を整理する</p>
授業における具体的な特色や方法	グループでの意見交換などの発言の機会が毎回の授業である。自身の発言の質が講義のクオリティを決めることを自覚したうえで主体的に参加する必要がある。 配布資料を整理し、その回の学習内容(知識)を確認する。
テキスト	教師作成のレジュメをテキストとして用いる
参考書	中学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領(平成30年3月公示予定 文部科学省) 沖縄県教育振興基本計画(令和4年度～令和13年度版) 文部科学省HP 沖縄県教育委員会HP、総務課、保健体育課、生涯学習振興課、県立学校教育課、義務教育課 その他、授業の中で、適宜、紹介します。
評価方法	授業への参加度、授業態度、授業中の課題、テストによって総合的に評価する。 試験：50% 講義における態度・発表・参加度・課題：50%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること

	<p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1 「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。</p> <p>2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。</p> <p>3 板書、パワポの内容は、ノートに丁寧にまとめるようにして下さい。</p>
オフィスアワー	調整中
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
渡久山 英雅			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC202		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 現代公教育制度の意義、原理及び構造について、その法的及び制度的仕組みに関する基礎的知識を身に付けるとともに、社会の状況とその変化の下で展開される学校現場の取り組みと課題を理解する。 また、学校安全、学校と地域との連携についての理解を深める。</p> <p>【到達目標】 ①公教育の原理及び理念を理解している。②公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。③教育制度を支える教育行政の理念及び仕組みを理解している。④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。⑤地域との連携及び協働による学校教育活動の意義並びに方法を理解している。⑥地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。⑦学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づき、危機管理並びに事故対応を含む学校安全の必要性を理解している。⑧生活安全、交通安全及び災害安全等の各領域の安全管理並びに安全教育の両面から具体的な取組を理解している。</p>
授業の概要	上記のテーマや到達目標を達成するため、学習指導要領の法的性格と教育制度の変遷、具体的な事例として以下の問題群を検討してゆく。学校選択制度、高校授業料無償化、学区制の問題、沖縄県の高校再編問題、子どもと貧困など。授業方法としては、授業の前半は講師による問題の解説をおこない、後半は学生による意見交換・議論・課題作成などを行う。
授業計画	<p>第1回 シラバスを用いたガイダンス（講義スタイルについて、評価について、等） アイスブレイク、講師自己紹介 講義の概要説明、教育の制度を学ぶ意義、評価の方法、レポートのタイトルなどについて伝える。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第2回 戦後の国の教育改革とこれからの学校教育について 教育の構造改革、教育基本法と教育振興計画、学習指導要領の改訂を説明し、変遷の理由を理解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第3回 子育てと教育について 子育てと家庭教育の視点から沖縄的特徴を踏まえながら、教育における国の役割と教育における地方公共団体、教育委員会の役割について考察する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第4回 教育に関する法体系と学習指導要領の法的性格 教育制度は、教育を受ける権利や学びの保障という点で重要であるだけでなく、学校現場とそこで働く教師にとっては自らの仕事の意義や教員としての存在理由を決定づけることから、公教育制度を構成している教育行政と法規および学習指導要領を説明する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第5回 沖縄県の教育振興基本計画について、その変遷と特徴を説明する 沖縄県の教育振興基本計画(令和4年度～令和13年度版)を読み解く 基本的考え方、主要施策、目指す教育の姿、主要施策等 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第6回 学校選択制度について 学校選択制度について、教育委員会と学校現場の取り組みについて説明する。特に高等学校の編成整備計画について説明し学区制や学校の在り方を考える。【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第7回 沖縄県の高校編成整備計画を考える（学区制度について） 戦後教育改革で、新制高校設置の原理の一つとして小学区制が採用されたが、近年の学区制の拡大はどのような理由から制度化されたか、学区制の拡大は何をもたらすのかを理解する。【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第8回 沖縄県の高校入試を考える―学区制、定員内不合格、全入、をどう考えるか― 沖縄県の高校入試制度の変遷、中学校と高校の接続の問題、多様な学びについて考察する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第9回 高等学校授業料無償化について 授業料無償化に至った理由と授業料無償化が何をもたらすのか、これからの課題について考察する。 【事前学習】テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第10回 子どもの貧困（その概略、子どもを支える仕組み、学校と地域の連携） 教育権の保障について学ぶ。6人に1人の子どもが相対的な貧困の状況にあるという状況を確認</p>

	<p>し、日本国憲法第26条の意義を再確認する。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第11回 いじめ防止について(いじめ防止対策基本法の意義) いじめ防止対策推進法の規定に基づき、各地方自治体において「いじめ防止基本方針」が策定された。その説明を行い、学校現場での取り組み事例を参考に国、地方自治体、学校現場の関係を読み解く。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第12回 学校教育と地域との連携について 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第47条の6に示されたコミュニティスクールの定義から、その設置理由と経緯および意義を学ぶ。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第13回 学校の組織マネジメントについて 学校の教育課題が多様化し、教員の働き方改革と教育の質の向上を標榜する中で校長の役割とチーム学校の考え方を考察する。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第14回 学校安全について(学校での事故と訴訟、学校の取り組み) 学校安全について考える。学校での事故の事例を取り上げ、その訴訟の結果を確認する。そのうえで、学校や教員に求められている取り組みを考える。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 レジュメを再読し、自身の考えをまとめる。</p> <p>第15回 国の教育施策と地方教育行政及び学校経営改革の動向と課題について 校長のリーダーシップ、教員の役割、学校評価、アカウンタビリティについて確認しながら、本講義のまとめを行う。授業内容確認のための小テストも行う。 【事前学習】 テーマに関する用語を、文献、辞書、ネット等で調べる。 【事後学習】 テストの復習を行う(2時間程度)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	教師作成のレジュメをテキストとして用いる。
参考書	参考書等は各回の授業で提示する。 『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省) 『高等学校学習指導要領』(平成30年3月公示予定 文部科学省) 文部科学省HP 沖縄県教育委員会HP、総務課、保健体育課、生涯学習振興課、県立学校教育課、義務教育課 沖縄県総合教育センターHP
評価方法	平常点(50%)、テスト(30%)、レポート(20%)。 平常点は、授業での課題点であり、発言内容、授業態度も含まれる。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) - :出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 <input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること <input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること <input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 履修要件として教育の原理を履修済みであること。 2 「教職の基礎理論」に関する科目である。 3 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する
オフィスアワー	調整中
課題に対するフィードバック方法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
廣瀬 等			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC201		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①テーマ：教育心理学の理論と活用</p> <p>②到達目標</p> <p>1) 教育心理学の主要な内容について理解することができる。[知識・理解]</p> <p>2) 日常生活や教育場面において、教育心理学的な視点を持って活用できる。[技能]</p> <p>3) 教育心理学に関わる話題や議論について、参加できる。[態度]</p>
授業の概要	<p>教育活動を理解する上で重要な生徒の心身の発達及び学習の過程について、発達段階の心理的特性を踏まえて教育活動を支援するための知識や技術を講義する。毎回、講義後に講義内容について、これまでの自分の経験を振り返るとともに、教員となった場合にどのような工夫ができるか等について、個人や集団で検討する。</p>
授業計画	<p>第1回 記憶力がいいとはどういうことか(記憶、忘却)</p> <p>自分ももっと記憶力が良かったら、と思ったことはないでしょうか。テストの前にな一夜漬けで覚えようと思ってもなかなか覚えられないし、せっかく覚えたことも試験が終わるとすぐに忘れてしまう、という経験はだれしも持っているでしょう。それでも私たちは成長とともに、膨大な量の情報を記憶していきます。この章では、人間の記憶の基本的な仕組みについて、「短期記憶」「長期記憶」「干渉」「検索失敗」などのキーワードから見ていきます。</p> <p>【事前学習】テキストpp.1~20を読み、記憶と忘却について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における記憶や忘却の働きについて、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p> <p>第2回 学ぶことと考えること(知識、問題解決)</p> <p>「学ぶ」という言葉から私たちがまず思い浮かべるのは、いままで知らなかった歴史や科学の知識を身につけたり、数学の問題が解けるようになったり、英語で話ができるようになったりすることでしょう。この章では、知識と問題を解決することについて、知識については「宣言的知識」「手続き的知識」「素朴概念」「ルールとバグ」、問題解決については「アルゴリズム」「ヒューリスティクス」「メタ認知」などのキーワードから説明します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.21~44を読み、知識、問題解決について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における知識や問題解決の働きについて、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p> <p>第3回 ほめることの大切さ(条件づけ、観察、自己強化)</p> <p>子どもの頃に学校で先生からほめられてうれしかったという経験や、テストで良い成績をとったり、スポーツ大会で入賞したときなどに、なんともいえない満足感を得たことがあるかも知れません。このように、他者からほめられることや自分自身で達成感を体験することによって、もっとがんばろうと思ったりするのです。この章では、ほめることが学習の成立に重要であることを、「条件づけ」「モデリング」「自己調整モデル」などのキーワードから明らかにしていきます。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.45~73を読み、条件づけ、観察、自己強化について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における条件づけ、観察、自己強化について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p> <p>第4回 「やる気」を考える(動機づけ理論)</p> <p>人は持っている能力を十分発揮するためには「やる気」が欠かせません。何かひとつのことを頑張ってやり遂げるのはうれしいものです。人はどのような時に一番頑張るのでしょうか。逆にどのような時に一生懸命にやろうとする気がなくなってしまうのでしょうか。この章では、達成動機と呼ばれる問題に関して「期待-価値モデル」「学習性無力感」「内的-外的統制」「原因帰属」「内的動機づけ」などのキーワードからいくつかの考え方を紹介します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.75~100を読み、動機づけ理論について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における動機づけ理論の適用について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p> <p>第5回 第1回~第4回まとめ</p> <p>これまで学んできた、第1回「記憶力がいいとはどういうことか」、第2回「学ぶことと考えること」、第3回「ほめることの大切さ」、第4回「やる気」を考える」において学習した内容について、キーワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.1~100を読み返し、「記憶、忘却」「知識、問題解決」「条件づけ、観察、自己強化」「動機づけ理論」についての理解の定着を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】第1回~第4回に関わる課題レポートについてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 学級という社会(学級集団、教師生徒関係、友人関係)</p> <p>小学校時代や中学校時代を思い出すと、勉強とともに多くの友人や先生の顔を思い出すかも知れませんが、学校ではさまざまな教科について学習します。また、振り返ってみると級友、他のクラスの友人や先輩、あるいは多くの教師との悲喜こもごもの触れ合いから、いかに多くのことを学んだかを、実感するのではないのでしょうか。この章では、「教師期待効果」「いじめ」「ソシオメトリックテスト」などのキーワードから学級という社会について見ていきます。</p>

	<p>【事前学習】授業前にテキストpp. 101～128を読み、学級集団、教師生徒関係、友人関係について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における学級集団、教師生徒関係、友人関係について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第7回	<p>どのように教えるか(学習指導、適性処遇交互作用)</p> <p>現在では、コンピュータによる授業がほとんどの学校で取り入れられています。一斉学習が指導形態の基本となっていますが、グループ学習やコンピュータによる個別学習なども行われています。この章では、「発見学習」「仮説実験授業」「有意味受容学習」「ジグソー学習」「プログラム学習」などのさまざまな学習、学習活動の成果を学習者と教授者の関連から説明する「適性処遇交互作用」などのキーワードから授業の進め方について述べていきます。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 129～147を読み、学習指導、適性処遇交互作用について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における学習指導、適性処遇交互作用について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第8回	<p>児童・生徒をどう評価するか(評価の種類、評価の情報)</p> <p>学校の入学試験や定期試験をはじめ私たちはさまざまな機会にテストを受けます。テストを受けて他人から評価されるというのは何となく嫌なものです。しかし、どこが間違っているのか、何が欠けているのか、的確な評価がなくては学習は進みません。この章では、学習を支援する評価、教育指導のための評価という観点から、「絶対評価」「到達度評価」「形成的評価」「自己評価」などのキーワードにより、評価をとらえ直してみましよう。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 149～171を読み、評価の種類、評価の情報について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における評価の種類、評価の情報について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第9回	<p>人間の発達について考える(発達段階、遺伝と環境)</p> <p>人間は誕生後、心身ともに成長していきます。特に、生まれてから中学あるいは高校時代までの発達の早さには驚かされます。発達を規定する要因は何でしょうか。皆さんがいまの自分に成長してきたのは、何によるものでしょうか。また、これまでの成長のみならず、老年期までの人間の一生についても見ていきます。この章では「発達段階」「成熟と学習」「遺伝と環境」「学習の臨界期」などのキーワードにより、人間の発達について考える材料を提供します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 173～193を読み、評価の種類、評価の情報について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における発達段階、遺伝と環境について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第10回	<p>第6回～第9回まとめ</p> <p>これまで学んできた第6回「学級という社会」、第7回「どのように教えるか」、第8回「児童・生徒をどう評価するか」、第9回「人間の発達について考える」において学習した内容について、キーワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 101～193を読み返し、「学級集団、教師生徒関係、友人関係」「学習指導、適性処遇交互作用」「評価の種類、評価の情報」「発達段階、遺伝と環境」についての理解の定着を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】第6回～第9回に関わる課題レポートについてまとめる。(2時間)</p>
第11回	<p>知的発達のメカニズム(知能、知能の発達)</p> <p>知能検査という言葉はふだんからよく耳にするでしょう。知能指数とはいったい何でしょうか。そうして頭の良さを何か数字で表すことができるのでしょうか。さらに知能はどのように発達していくのでしょうか。この章では「知能指数」「いろいろな頭の良さ」「素朴な知能観」「ピアジェの発達段階」「ルールの発達」などのキーワードにより、知能を数値でとらえようとする試みと知能の発達についてのピアジェの考え方について紹介します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 195～220を読み、知能、知能の発達について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における知能、知能の発達について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第12回	<p>人格発達の基礎(発達段階、愛着)</p> <p>人それぞれその人らしさというものがあります。自分自身、何かしらこれが自分らしさだ、と感じていることでしょうか。これが私なのだという「自分らしさ」の感覚はどのようにして形づくられていくのでしょうか。この章では「フロイトの発達段階」「エリクソンの発達段階」「母子のきずな」「自我同一性」などのキーワードにより、アイデンティティという概念を提唱したエリクソンの考え方を、その背景となったフロイトの考え方とともにみていくことにします。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 221～245を読み、発達段階、愛着について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における発達段階、愛着について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第13回	<p>困難を抱える子どもたち(発達障害)</p> <p>教室で大きな声を出したり離席したりする子どもがいたり、しつがができていないとか、わがままで考えがちです。多くの子どもたちは、人との交わり方や行動のコントロールの仕方を自然に学び身につけていきますが、発達初期の何らかの障害のためにこうした学習に困難を抱えている子どもたちがいます。この章では「知的障害」「自閉症」「注意欠如・多動性障害」「学習障害」などのキーワードにより、このような困難をもつ子どもたち、発達障害について紹介します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp. 247～266を読み、発達障害について理解する。(2時間)</p> <p>【事後学習】日常生活や教育場面における発達障害について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第14回	<p>カウンセリングとは(心理療法)</p>

	<p>カウンセリングという言葉はきわめて広い意味で使われますが、限定してとらえると、心理的な問題を抱えた人々に対する援助を意味します。現在の学校は不登校やいじめなどさまざまな問題を抱え、児童・生徒の心理的な問題への援助サービスの必要性が高まっています。この章では、「クライアント中心療法」「行動療法」「認知療法」などのキーワードにより、治療的なカウンセリングのいくつかの理論的な考え方と、その応用例について紹介します。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.267～290を読み、心理療法について理解する。(2時間) 【事後学習】日常生活や教育場面における心理療法について、自分の経験を振り返り省察する。(2時間)</p>
第15回	<p>第11回～第14回まとめ</p> <p>これまで学んできた第11回「知的発達メカニズム」、第12回「人格発達の基礎」、第13回「困難を抱える子どもたち」、第14回「カウンセリングとは」において学習した内容について、キーワードとなる内容を中心に、理解しているかどうかを確認しながら振り返ります。さらに、子どもの悩み相談の事例を取り上げて、これまで学んできたことからどのように対応できるかを考えます。</p> <p>【事前学習】授業前にテキストpp.195～290を読み返し、「知能、知能の発達」「発達段階、愛着」「発達障害」「心理療法」についての理解の定着を確認する。(2時間) 【事後学習】第1回～第15回に関わる内容について復習し、定期試験に備える。(2時間)</p>
第16回	<p>定期試験</p> <p>教育心理学の基礎事項の理解を確認する問題と、勉強がうまくいっていない生徒に、教育心理学で学んだことを活用してどのような対応をしたらよいかを検討してまとめる問題の2部構成とする。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	鎌原雅彦・竹綱誠一郎『第5版 やさしい教育心理学』有斐閣 2019
参考書	特になし
評価方法	評価は、課題レポート(40%)、定期試験(60%)を総合的に判断して行います。課題レポートは、第5回の第1章～第4章まとめ時(20%)、および第10回の第5章～第8章まとめ時(20%)に課します。
評価基準	<p>評価基準は、到達目標で示した3領域〔1)教育心理学の主要な内容について理解することができる。2)日常生活や教育場面において、教育心理学的な視点を持って活用できる。3)教育心理学に関わる話題や議論について、参加できる。〕について、課題レポートと定期試験をとおして、以下の基準で評価を行います。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	授業終了後に質問を受け付けます。またはメールで返答します。hirose@cs.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	課題レポートのフィードバックは授業において行います。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位 (2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
新垣 ゆかり			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC206		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ:特別支援教育の制度の理念や仕組みと特別なニーズを有する子どもの特性を理解している。</p> <p>到達目標： 知識・理解の観点:特別支援教育の理念及び発達障害の特性とその対応についての知識を身につける。 技能の観点:インクルーシブ教育並びに我が国におけるインクルーシブ教育システムの基本的な概念を正確に説明できる。 態度の観点:障害を含む特別なニーズについて理解しようとする基本的な態度を身につけ議論に参加できる。</p>
授業の概要	<p>1) 特別支援教育の基本的な理念を理解し、インクルーシブ教育に当たっての留意点について学ぶ。 2) 特別なニーズを有する(特別な支援を必要とする)子どもへの支援に関わる教育課程と多様な学びの場、および就学・教育支援の仕組みと実際について学ぶ。 3) 発達障害を含む障害由来の様々なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。 4) 貧困、外国に繋がる子ども等、障害に由来しない特別なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。 5) 関係諸機関の種類と役割を理解し、保護者も含めた特別支援教育論に必要な連携の在り方について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 特別支援教育の歴史と制度 ～特別なニーズを有する子どもを理解するために</p> <p>1 特別支援教育とはどのような教育か知る。 2 特別支援教育とインクルーシブ教育を知る。</p> <p>① 障害の概念(障害に対する考え方の基本的な理念を知るために、国際生活機能分類(ICF)の概念と法制度について)知る ② 特殊教育から特別支援教育へ ③ インクルーシブ教育とは ～背景を理解する ④ 障害のある子供の就学のプロセス ⑤ 知っておきたい就学奨励</p> <p>[事前学習]:障害にはどのような種類があるのかについて調べておく。(120分) [事前学習]:障害をふたつの軸で見るという観点から整理し、障害種別と程度についての相違に関する留意点をまとめる。(120分)</p> <p>第2回 特別支援教育の制度</p> <p>1 「特殊教育」から「特別支援教育とかわっていく歴史的経緯と意味を学ぼう。 2 インクルーシブ教育とはなにか?特別支援教育における役割を知ろう。</p> <p>① 障害のある児童生徒との特別支援教育 ② 障害のある児童生徒の学びの場について知る ③ 特別な支援が必要な児童生徒の学習指導要領～読んでみよう学習指導要領・教育要領・教育指針 ④ 障害のある児童生徒の教育課程～教育課程とは? ⑤ インクルーシブ教育システムを構築するとは</p> <p>[事前学習]:インクルーシブ教育(システム)についてその概要を調べておく。(120分) [事前学習]:インクルーシブ教育とインクルーシブ教育の違いを知り、その概要をまとめる。(120分)</p> <p>第3回 視覚障害と聴覚障害の理解と支援～情報障害・感覚障害について理解しよう</p> <p>1 視覚障害と聴覚障害の特性を理解しよう。 2 特別支援教育における視覚障害と聴覚障害の支援を学ぼう。</p> <p>[視覚障害] ① 視覚の仕組みと視覚障害 ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤ 教育課程 どこで何を学ぶか ⑥ 指導方法(視覚障害教育)</p> <p>[聴覚障害] ① 聴覚の仕組みと聴覚障害 ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤ 教育課程 どこで何を学ぶか ⑥ 指導方法(聴覚障害教育)</p> <p>[事前学習]:視覚障害・聴覚障害に対する自分のもつイメージについてまとめる(120分) [事後学習]:視覚障害がある場合どのようなことでの困りにつながるか想像しながらまとめる。それぞれに関する留意点についてまとめる(120分)</p> <p>第4回 肢体不自由と病弱の理解と支援</p> <p>1 肢体不自由と病弱の特性を理解しよう。 2 肢体不自由と病弱のある幼児児童生徒の支援と指導の基本を学ぼう。</p> <p>[肢体不自由]</p>

- ① 肢体不自由とは ② 原因となる主な疾患と特徴 ③ 教育機関と教育課程
- ④ 指導方法 (肢体不自由教育)

[病弱]

- ① 病弱とは ② 病弱教育の対象 ③ 教育機関と教育課程
- ④ 指導方法 (病弱教育)

[事前学習]:肢体不自由や病弱に対するイメージをまとめる。(120分)

[事後学習]:肢体不自由や病弱の対応について可能な支援について考える。(120分)

第5回

知的障害の理解と支援

- 1 知的障害の概念と診断基準の変遷を知るとは、支援や指導のあり方につなげられるようにする。
- 2 子供の知的気球を満たす支援はどうつくられてきたのか、支援に際して子供の情緒的やりとりはなぜ大切なのかを知る。

- ① 概念 ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤教育課程 ⑥指導方法

[事前学習]:知的障害に対するイメージをまとめる。(120分)

[事後学習]:知的障害の対応について可能な支援について考える。(120分)

第6回

言語障害の理解と支援

- 1 言語障害の特性を理解しよう。
- 2 特別支援教育における言語障害の支援を学ぼう。
 - ① 概念、定義 ② 分類 ③ 支援 ④ 教育課程

※トピックス : 重複障害とは? P77

[事前学習]:言語障害に対してもつ自分のイメージについてまとめておく。(120分)

[事後学習]:言語障害のある子どもへの対応について整理し、留意点をまとめる。(120分)

第7回

発達障害とは・ASDの理解と支援

発達障害

- 1 発達障害の法律上の定義
- 2 発達障害に共通した特性
- 3 発達障害に対する考え方と対応

ASDの理解と支援

- 1 「自閉症」という概念とその原因にまつわる歴史的経緯について学ぼう。
- 2 自閉スペクトラム商事の多様性と指導する側の対応について考えてみよう。
 - ① 概念 ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤ 教育課程 ⑥ 指導方法

[事前学習]:ASDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく。(120分)

[事後学習]:教育場面におけるASDへの具体的な対応について考える。(120分)

第8回

LDの理解と支援

- 1 LDとはどのような障害なのか、その特徴を理解する。
- 2 LDの子供を指導する際の注意点をその特徴と併せて考える。
 - ① 概念 ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤ 教育課程 ⑥ 指導方法

[事前学習]:LDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく。(120分)

[事後学習]:手先の不器用さを併せ持ち、書字に問題のあるLDへの具体的な対応について考える。(120分)

第9回

ADHDの理解と支援

- 1 ADHDとは、どんな障害なのか、原因や特徴を理解しよう。
- 2 ADHDの特性に配慮した指導方法について学ぼう。
 - ① 注意の働きとADHD ② 分類 ③ 原因 ④ 特徴 ⑤ 教育課程
 - ⑥ 指導方法

[事前学習]:ADHDに対して持つ自分のイメージについてまとめる。(120分)

[事後学習]:ADHDの子供への具体的な対応について考える。(120分)

第10回

幼稚園等における特別支援教育

- 1 幼児教育・保育における発達課題の特徴、遊びの意義を理解しよう。
- 2 障害のある子供が集団の中で過ごすための支援や配慮、関係機関との連携、保護者への支援などを学ぼう。

- ① 発達の課題と子供の特徴
- ② 発達を促す生活や遊び
- ③ 子供同士の関わり合い
- ④ 早期からの教育相談
- ⑤ 保護者支援

[事前学習]:幼稚園等における特別支援教育に対するイメージをまとめる。(120分)

[事後学習]:幼稚園等における特別支援教育の対応でどのような支援が必要か具体的にまとめる。(120分)

第11回

小学校と中学校における特別支援教育

- 1 年齢に応じた発達の課題と必要な支援を知る。
- 2 施設間の連携による支援の仕組みを知る。
- 3 障害のある子供のための工夫や合理的配慮について知る。

- ① 発達の課題と子供の特徴 ② 園および学校間の連携
③ 教育課程実施上の配慮事項 ④ 進路指導とキャリア教育

[事前学習]:小中学校における特別支援教育に対するイメージをまとめる。(120分)

[事後学習]:幼稚園等での特別支援教育と小中学校における特別支援教育の課題や共通している点についてまとめよう。(120分)

第12回

特別な教育的ニーズのある幼児児童および生徒の理解と支援

- 1 特別な教育的ニーズのある子供として貧困家庭の子供と母国語の異なる子供に対する理解を深める。
- 2 ここでは特別なニーズを有する子どもに対する具体的な教育的支援の方策について学びます。

貧困家庭の子ども

- ① 貧困家庭の子供の生活困難 ② 学習上の課題と対応 ③ 支援組織

母国語の異なる子ども

- ① 母国語の異なる子供への生活支援 ② 学習上の課題と対応 ③ 支援組織

※ ここでは貧困や外国に繋がる子ども等、障害に由来しない特別なニーズを有する子どもについて、その評価と特性、対応の在り方について概要も学びます。貧困が子どもに及ぼす影響については、家庭環境を考慮した家族支援の観点も踏まえながら対応の方策と留意点について理解します。

[事前学習]:貧困に対しても自分のイメージについてまとめておく。(120分)

[事後学習]:外国に繋がる子どもについて特にコミュニケーションの観点から具体的な対応について考える。(120分)

第13回

通級による指導および自立活動

- 1 通級の対象者と時間数を理解しよう。
- 2 障害別の指導方法について理解しよう。
- 3 自立活動の目的と内容について理解しよう。
 - ① 「通常級」と「通級」
 - ② 通級指導の対象と時間数
 - ③ 通級による指導の内容
 - ④ 交流および共同学習
 - ⑤ 通級における自立活動
 - ⑥ 自立活動の目標
 - ⑦ 自立活動の内容
 - ⑧ 通級による指導〔通級教室〕との情報連携

[事前学習]:通級による指導について知り、どのような指導が行われているか、イメージをもち、書き出す。(120分)

[事後学習]:通級による指導の実態を調べ、具体的な対応について考える。(120分)

第14回

個別の指導計画および個別の教育支援計画

- 1 特別支援教育における計画について学ぼう。
- 2 計画作成に関わる諸問題について理解しよう。
 - ① 個別の指導計画
 - ② 個別の教育支援計画
 - ③ 「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の関係性
 - ④ 計画書の管理

※支援ネットワークを考える場合には、段階的に都道府県レベル、圏域レベル（中部等）、市町村レベルにそれぞれリソースがあることを知る。

- ①自分が勤める学校の地域にあるリソースについて把握することの重要性を知る。
- ②沖縄県で作成されているサポートノート「えいぶる」についても知る。

[事前学習]:「サポートノートえいぶる」を検索等を行い探す。(120分)

[事後学習]:沖縄県において、教育と福祉・保健分野に用意されているリソース（県レベル）について調べる。(120分)

第15回

支援体制と保護者との連携および支援

- 1 地域の社会資源とも連携した学校内の支援システムの構築とはどのようなものか知る。
- 2 保護者にとって安心を感じられる支援とは何か考えよう。

[学校内における特別支援教育体制]

- ① 校長の責務と組織的・計画的な体制整備 ② 校内（園内）委員会
③ 実態把握と校外リソースの活用 ④ 特別支援教育コーディネーター

[保護者との連携]

- ① 保護者への対応のあり方 ② 保護者との協働

[事前学習]:「家族支援」の概要について調べておく。(120分)

[事後学習]:障害を有する子どもの保護者への対応について、特に教員として留意すべき点を整理。(120分)

第16回

定期試験

15回の講義内容を踏まえて、記述式の期末試験を行います。

※これまでの講義の中で特に印象に残った内容についてまとめておく。

※「個に応じた教育」について、教員になった場合を想定して自分なりの取り組み姿勢について整理。

授業における具体的な特色や方法

- 1) アクティブ・ラーニングを促す取組
- 2) 情報リテラシーに関する科目
- 3) ICTの活用
- 4) 初年次教育

	5) 実践的PBL 【 】
テキスト	「特別支援教育」 中山書店 (パワーポイント資料等：自作教材) 講義前週に配布
参考書	小学校学習指導要領 (文部科学省) 中学校学習指導要領 (文部科学省) 特別支援学校学習指導要領総則編 解説 (文部科学省) 必要に応じてプリントを配布します。
評価方法	定期試験 (60%)、授業中の態度 (20%)、授業への参加度 (20%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上: 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点~90点未満: 到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点~80点未満: 到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点~70点未満: 到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満: 到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1~4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教職科目であることから、教員になる強い意志を持ち参加してください。 講義には目的意識を持って、主体的に参加し、講義を通じて自ら思考する態度を身に付けること。 演習の場面では積極的にディスカッションに参加してください。 また、講義中は他者への迷惑行為 (携帯電話・メール・私語・離席等) を固く禁止します。 パワーポイント資料等に関連する資料は講義開始時に配布予定です、講義で使用しますので必ず確認してください。
オフィスアワー	毎週●曜日●限目緒方研究室 (西3-2) 授業終了後、あるいは次回授業前に質問を受け付けます。 連絡はメール (arakaykr0421@outlook.jp) あるいはチャットでお願いします。
課題に対するフィードバック方法	課題などの詳細は授業内で説明予定です。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
芳澤 拓也			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC302		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 道徳の理論と実践を学ぶ ※授業は、この授業は旧「教育職員免許法施行規則」(H30年以前)に定める「教職に関する科目」、新「教育職員免許法施行規則」(R1年以降)における「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」であり、教職必修科目です。</p> <p>【到達目標】 ①道徳教育に関する多様な見方・考え方を知り、自分なりに考えることができる。 ②中学校学習指導要領における道徳教育の規定を理解することができる。 ③道徳の授業構想・計画、教材研究、授業実践・評価を行うことができる。</p>
授業の概要	<p>学校現場では、「特別の教科 道徳」を指導することになります。この授業では、現在の道徳教育が戦前の反省に立脚していることを確認した上で、①学習指導要領における規定、「特別の教科 道徳」の特質を理解し、②学校現場において展開されている道徳授業事例の批判的検討を行い、③「「考え、議論する」ことを重視した授業、アクティブ・ラーニングの視点を念頭においた道徳授業等を検討し、④こうした授業づくりに必要な、道徳をめぐる論理の検討を経て、道徳授業を実践・評価できる力を身につけていきたいと考えています。</p>
授業計画	<p>第1回 「道徳(教育)」とは何か①ー道徳教育の目標ー 本講義の概要説明。「道徳」、この言葉の持つ意味を考える。道徳教育と道徳科の違いを理解する。 【事前学習】自身が受けてきた道徳教育を振り返り、道徳の授業で何を学んだか話せるように準備をする。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 ※講義以外に60時間の学修時間を要する。概ね、各回の【事前学習】に30分、【事後学習】に30分、レポート前準備に14時間、テストの復習に2時間、レポート(学習指導案)作成に30時間を想定している。</p> <p>第2回 「道徳(教育)」とは何か②ー戦前の道徳教育への反省からー 「教育勅語」に象徴される戦前の修身教育の在り方を考える。その上で、「道徳科」導入の際、どのような議論があったかを理解する。 【事前学習】戦前の日本の学校教育について、自身の知識を整理する。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第3回 道徳性の発達理論①ー徳目主義(日本)、インカルケーション(アメリカ)のゆがみー 道徳の授業について、徳目主義、インカルケーション批判から、日米における「道徳教育」にたいしどのような批判的検討が行われてきたかを理解する。 「言葉の向こうに」、「一冊のノート」、「卒業文集最後の二行」、「二通の手紙」といった道徳科のテキストを読解する。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第4回 道徳性の発達理論②論ーコールバーグの提起：インカルケーション、価値の明確化を越えてー アメリカにおけるインカルケーション、価値の明確化の議論を批判しつつ、道徳性の発達理論を提唱したコールバーグの議論を学ぶ 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第5回 「道徳(教育)」とは何か③ー道徳教育の目標と道徳教育ー 教育基本法における道徳教育の理念について考察する。 道徳テキスト「手品師」を批判的に読む。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第6回 道徳科の目標とテキスト分析 道徳科の目標を理解する。その上で、道徳テキストの読解を行う。 【事前学習】テーマに関する用語を、辞書、文献、ネット等で調べる。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第7回 「「考え、議論する」ことを重視した道徳授業①ー基本的な考え方、実践事例検討・テキスト「二通の手紙」ー 道徳科における内容項目を理解する。その上で、道徳科テキスト「二通の手紙」の読解および授業実践を批判的に検討する。 【事前学習】事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「二通の手紙」読解する。 【事後学習】レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。</p> <p>第8回 「「考え、議論する」ことを重視した道徳授業②ー授業実践事例をもとに考える、教材「一冊のノート」ー</p>

	<p>道徳科テキスト「一冊のノート」の読解および授業実践を批判的に検討する。</p> <p>【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「一冊のノート」を読解する。 【事後学習】 レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業③－授業実践事例をもとに考える、教材「卒業文集最後の二行」－ 道徳科テキスト「卒業文集 最後の二行」の読解および授業実践を批判的に検討する。</p> <p>【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「卒業文集 最後の二行」を読解する。</p> <p>【事後学習】 レジュメを再読し、自分自身の意見をまとめる。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業④－授業実践事例をもとに考える、教材「言葉の向こうに」－ 道徳科テキスト「言葉の向こうに」の読解および授業実践を批判的に検討する。 【事前学習】 事前に内容項目を確認しつつ、道徳科テキスト「言葉の向こうに」を読解する。</p> <p>【事後学習】 道徳の指導案を作成し提出してもらおう。提出前に、授業外でクラスメイトとミニ模擬授業をおこなってもらおう。指導案の作成のための調べる作業、作成作業、ミニ模擬授業で30時間ほどの学修時間を必要とする。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業⑤－道徳資料の検討と授業展開の工夫、多面的・多角的な学び－ 改めて、道徳科の目標を確認しつつ、道徳科における授業展開の在り方、その工夫について考え、自らが実践する道徳科の授業をイメージする。とくに、自己を見つめる、物事を多面的・多角的に考える、自己の生き方についての考えを深める学習を念頭に置く。</p> <p>【事前学習】 これまで考察してきたテキスト、授業の進行について、ノートに整理する。 【事後学習】 自らが実践する道徳科授業のイメージをノートに整理する。 「考え、議論する」ことを重視した道徳授業⑥－道徳資料の検討と授業展開の工夫、評価－道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度との関連を念頭におきつつ、道徳科の評価の在り方について考える。</p> <p>【事前学習】 【事後学習】 モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 授業の計画－学習指導案の構成・作成・評価－ 模擬授業へ向けて、授業を構想しつつ、学習指導案を作成する。</p> <p>【事前学習】 道徳科の学習指導案と他教科の学習指導案の違いを調べる。 【事後学習】 モラルジレンマ教材を複数目を通してもらう。 授業の計画－カリキュラム・マネジメント－ 改めて道徳教育の目標、道徳科の目標を整理しつつ、カリキュラムの中での道徳科の位置づけを知る。</p> <p>【事前学習】 テーマに関する内容にかかわって学習指導要領を確認する。 【事後学習】 テーマに関する内容にかかわって学習指導要領を確認する。 模擬授業－授業の展開の工夫－ 作成した道徳科学習指導案をもとに、模擬授業を実施し、相互評価する。授業では、授業展開の工夫に視点を置きフィードバックを行う。</p> <p>【事前学習】 学習指導案、教材、ワークシート等を作成し、模擬授業を構想する。 【事後学習】 模擬授業の実践をフィードバックする。</p> <p>第16回 模擬授業－教材の工夫－ 作成した道徳科学習指導案をもとに、模擬授業を実施し、相互評価する。授業では、教材の工夫に視点を置きフィードバックを行う。 【事前学習】 学習指導案、教材、ワークシート等を作成し、模擬授業を構想する。 【事後学習】 模擬授業の実践をフィードバックする。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講師が配布する資料、プリントをテキストとして用いる。
参考書	『中学校学習指導要領』（平成29年3月告示 文部科学省） 『高等学校学習指導要領』（平成30年3月公示予定 文部科学省） 他の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。
評価方法	平常点（20点）、グループワーク、提出物、レポート（80%）。平常点は授業への参加意欲、「フィードバックシート」の内容等で総合的に評価する。
評価基準	<p>到達目標を観点として、以下の履修規定に定める基準に則り評価する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1 履修要件として、教育の原理、教育の制度を履修済みであること。</p> <p>2 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。</p> <p>3 模擬授業の実践へ向けてグループ活動を予定している。グループリーダーを中心に、生産的な意見交換、批判、援助と支援を可能にする関係作りを意識して欲しい。また、授業内外で話合いが要求される。議論を深めるためにも、広く社会へ向けてセンサーを広げて欲しいと考えています。</p> <p>4 授業内での連絡、提出物、グループ作業などにおいてMicrosoft Teamsを活用する。各自、デバイス持参で受講すること。</p>
オフィスアワー	連絡は、Microsoft Teamsのチャットを使用する。
課題に対するフィードバック方法	毎回の授業で配布・回収されるフィードバックシートを活用する。

講義科目名称： 特別活動及び総合的な学習の時間の指導法 授業コード： E536A

英文科目名称： Teaching Methods of Special Activities and General Studies

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年次	2単位 (2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
芳澤 拓也			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC304		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>1) 学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を知り、理解することができる。</p> <p>2) 教育課程における特別活動の位置づけと他教科等との関連を知り解説することができる。</p> <p>3) 学級活動・ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事等の特質と指導のあり方を知り、解説することができる。</p> <p>4) 合意形成に向けた話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を知り、例示することができる。</p>
授業の概要	<p>ここでは、「なすことによって学ぶ」（特別活動）という学習論・指導原理を学んでいく。具体的には、「なすこと」による学習が、①学校教育の中で歴史的にどのように位置づけられてきたか、②学習指導要領においてどのように位置づけられているか、③他教科や地域との関わりを含めつつ、どのように計画、実践、評価するものとして構想されているのか、具体的な事例を参照しながら学んでいく。こうした学習を通じて、「なすこと」による学習が、求められる資質・能力論との関係で再構成されつつあることを理解しつつ、集団や社会の中で通用する自分づくりのあり方について考察していきたい。</p>
授業計画	<p>第1回 「特別活動及び総合的な学習の時間の指導法」という授業についてー集団的な学びと探究的・教科横断的な学び、特別活動、総合的な学習（探究）の時間の歴史ー</p> <p>【事前学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」とはどのような時間なのか、イメージしてきてください。 【事後学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間の指導法」の学習の方法論をまとめ、課題を提出してください。</p> <p>第2回 学習指導要領における特別活動の位置づけー目標、内容、3つの領域と育成が目指される資質・能力</p> <p>【事前学習】（2時間） 「学習指導要領」における「特別活動」の項目に目を通してください。 【事後学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「特別活動」の項目を復習し、授業内で提示された課題を提出してください。</p> <p>第3回 教育課程における特別活動一年間計画、実践・取組の評価、その改善ー</p> <p>【事前学習】（2時間） 行事に注目して、それが予定されている時期を把握してください。 【事後学習】（2時間） 行事の意味について、行事そのものと開かれる時期の両面からとらえなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p> <p>第4回 教室内の人間関係と特別活動</p> <p>【事前学習】（2時間） 生徒達は教室内でどのようなグループを作っていたか、思い出してみてください。 【事後学習】（2時間） 生徒達がつくる集団の特質について、整理し、授業内で提示された課題を提出してください。</p> <p>第5回 1年間の見通しをもった学級経営、行事</p> <p>【事前学習】（2時間） 「強いいじめ」が出てくるのは、何月あたりか、学校体験を思い起こしながら、考えてください。 【事後学習】（2時間） 1年間の学級経営の見通しを整理し、授業内で提示された課題を提出してください。</p> <p>第6回 年間（行事）計画と生徒会の役割</p> <p>【事前学習】（2時間） 生徒会は何を求められているのか、「学習指導要領」で確認してください。 【事後学習】（2時間） 実践例に見られる生徒会活動の意味を捉えなおし、授業内で提示された課題を提出してください。</p> <p>第7回 学級活動指導案の実際</p> <p>【事前学習】（2時間） 学級活動では、何が求められているか「学習指導要領」で、確認してください。 【事後学習】（2時間） 学級活動指導案の書き方について、自分なりに整理し、授業内で提示された課題を提出してください。</p>

第8回	<p>ノンエリートのカリヤ形成と学校における学び、指導の意味</p> <p>【事前学習】（2時間） 「ノンエリート」とは、何か考えてきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 学校の役割について、「ノンエリートのカリヤ形成」の視点から捉えなおし、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第9回	<p>学習指導要領における総合的な学習（探究）の時間の位置づけー目標、内容、育成が目指される資質・能力</p> <p>【事前学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を確認してください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「学習指導要領」にて「総合的な学習の時間」の項目を再確認しつつ、その学習法の特徴を自分なりに整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第10回	<p>教育課程における総合的な学習（探究）の時間ー年間計画・他教科とのかかわりー</p> <p>【事前学習】（2時間） 自身の「総合的な学習の時間」の記憶を、掘り起こしてきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」を、「計画」の観点からとらえなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第11回	<p>総合的な学習（探究）の時間における学びのプロセス</p> <p>【事前学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学習法について整理してきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学びに対し、授業者になにが求められるか、整理し、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第12回	<p>探究的・教科横断的な学びにおける指導、教材・教具、評価</p> <p>【事前学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」を指導する際、授業者になにが求められるか、整理してください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」において、「評価」を念頭に置いたとき、何を意識すべきか整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第13回	<p>キャリア教育と総合的な学習（探究）の時間</p> <p>【事前学習】（2時間） 「キャリア」とは何か、自分の言葉でまとめてきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「キャリア」の学習において、何を学びたいか、何を学ぶべきか、整理してください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第14回	<p>総合的な学習（探究）の時間の実際</p> <p>【事前学習】（2時間） 事前に提示される課題について、調べてきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」について調べ、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第15回	<p>生徒の学びと総合的な学習（探究）の時間</p> <p>【事前学習】（2時間） 自身が調べてきたことを、整理してきてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「総合的な学習の時間」の学習法、指導法に照らし合わせて、自身の学びを捉えなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
第16回	<p>グループによるプレゼンテーション</p> <p>【事前学習】（2時間） 授業全体を通してグループで学習した内容を、学習指導案およびプレゼンテーション資料にまとめてください。</p> <p>【事後学習】（2時間） 「特別活動」「総合的な学習の時間」の学習法、指導法に照らし合わせて、自身の学びを捉えなおしてください。また、授業内で提示された課題を提出してください。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> グループワーク、協議、発表</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 映像、動画、パワーポイント等</p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	『中学校学習指導要領』（平成29年）、『高等学校学習指導要領』（平成30年）
参考書	『中学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成29年）、『高等学校学習指導要領解説 特別活動編』（平成30年）。それ以外の参考文献は、授業の中で適宜紹介します。
評価方法	平常点（10点）、グループワークおよびプレゼンテーション、提出物、レポート（90%）。平常点は授業への参加意欲、「ふりかえりシート」の内容等で総合的に評価する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀（A）90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優（B）80点～90点未満：到達目標を十分に達成している

	<p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	グループ討議を行う予定です。積極的な参加をお願いします。
オフィスアワー	授業終了後に質問を受付けます。
課題に対するフィードバック方法	授業内にて、適宜、応答していく。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年次	2単位 (2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
城間 祥子			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>①授業のテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の方法及び教育の技術に関する基礎的な知識・技能を身につける。 ・教育課程の意義と教育課程の編成について理解する。 <p>②到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 教育方法の基礎的理論と実践について理解している。 2) 学習指導案を作成することができる。 3) 授業を行う上で必要な技術の基礎を身に付けている。 4) 学校教育における教育課程の意義を理解している。 5) 学習指導要領とはどのようなものかを説明できる。 6) 各学校で教育課程を編成する意義や方法を理解している。 7) カリキュラム・マネジメントの意義や方法について理解している。
授業の概要	<p>第1～8回は、授業を構成する様々な要素について理解を深め、学習指導案の作成や模擬授業を通して、授業づくりの基本的な技術を身に付ける。</p> <p>第9～15回は、カリキュラム・デザイナーとしての教師に必要な基礎的な知識を身につける。教育課程及び学習指導要領について理解を深めるとともに、各学校で生徒や地域の実態を踏まえて教育課程を編成する意義や方法について具体例を通して学ぶ。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、授業の構成要素 シラバスの確認、授業の構要素、教え方がうまい人/へたな人ってどんな人？ 【事前学習】シラバスを読む、よい授業の条件を考える (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第2回 学習指導案の書き方 授業ができるまで (ADDIEモデル)、学習指導案の構成と種類、授業展開 【事前学習】面白いと思う学習指導案を探し出す (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第3回 学習目標と学習評価 学習目標と評価規準の書き方、学習目標に応じた評価方法の選択 【事前学習】既存の学習指導案の学習目標と評価方法の対応関係を分析する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第4回 個別最適な学びと協働的な学び 学習形態と教育環境 【事前学習】既存の学習指導案から効果的な学習活動を収集する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第5回 学習指導案の作成 学習指導案を作成する 【事前学習】学習指導案の下書き (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出、学習指導案を完成させる (2時間)</p> <p>第6回 学習指導案の発表 作成した学習指導案のプレゼン 【事前学習】発表の準備 (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出、学習指導案を修正する (2時間)</p> <p>第7回 「授業研究」と授業づくりの考え方 学び続ける教員像、「授業研究」とは、模擬授業とリフレクション (ロールプレイ) 【事前学習】授業研究に関する資料を読む (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第8回 模擬授業の実施 模擬授業とリフレクションの実践 【事前学習】模擬授業の準備 (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第9回 教育課程と学習指導要領 教育課程の基準としての学習指導要領、学習指導要領の種類と構成、教育課程とは何か 【事前学習】学習指導要領の全体像を把握する (2時間) 【事後学習】振り返りレポートの提出 (2時間)</p> <p>第10回 新学習指導要領のポイント 学習指導要領ができるまで、社会に開かれた教育課程、資質・能力の育成、主体的・対話的で深</p>

	<p>い学び 【事前学習】 学習指導要領の総則を読む (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第11回	<p>カリキュラムのマネジメントと評価 カリキュラム・マネジメントの定義、必要性、重視されるようになった背景、3つの側面 【事前学習】 カリキュラムマネジメントについて資料を読む (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第12回	<p>教育課程編成の原理 系統主義に基づく教育課程の編成、経験主義に基づく教育課程の編成、総合的・横断的な学習のカリキュラム 【事前学習】 事例のビデオを視聴する (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第13回	<p>教育課程と学力 学力調査、OECDのキー・コンピテンシー、学力の3要素、入試と学力 【事前学習】 PISAの問題を解く (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第14回	<p>学習指導要領の変遷 試案、系統主義、ゆとり教育、生きる力の育成、資質・能力の育成 【事前学習】 年表の作成 (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第15回	<p>まとめ、期末試験 教育課程及び授業づくりについての理解を確認する 【事前学習】 期末試験に向けてこれまでの内容を復習する (2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出 (2時間)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>中学校学習指導要領 (平成29年3月告示 文部科学省) 高等学校学習指導要領 (平成30年3月告示 文部科学省)</p>
参考書	<p>田中耕治 (編) 『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007年</p>
評価方法	<p>振り返りレポート (30%)、学習指導案の作成と発表 (15%)、模擬授業 (15%)、期末試験 (40%)</p>
評価基準	<p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ○ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>特に無し</p>
オフィスアワー	<p>授業終了後に質問を受け付ける。</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題及び振り返りレポート等は授業内でその都度返却する。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期(集中講義)	2年次	1単位(0-1)	教職科目(必修科目)
担当教員			
仲地 範禮			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC207		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに児童及び生徒に情報活用能力(情報モラルを含む)を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。</p> <p>到達目標は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会的背景や急速な技術の発展を踏まえ、情報通信技術の活用の意義とあり方を理解している。 2) 個別最適な学びと協働的な学びや、主体的・対話的で深い学びの実現にむけた授業改善における情報通信技術の活用意義を理解している。 3) 情報通信技術を効果的に活用した事例を理解している。 4) 情報活用通信技術を活用する基礎的な指導法を身に付けている。 5) 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの使用法を理解している。 6) 統合型校務支援システム等、情報通信技術を活用した校務の推進について理解している。 7) 情報モラルを含む情報活用能力の育成に必要な基礎的な指導法を理解している。
授業の概要	<p>上記のテーマや到達目標を達成するため、具体的な事例として、ICT教育環境整備ハンドブックの例を参考に、一斉授業、個別最適な学びの授業、遠隔・オンライン授業におけるICTの有用性や意義を理解する。加えて、統合型校務支援システムを代表とする校務の情報化の必要性や情報モラルについても具体的な事例をもとに理解を進める。授業の前半は講師による解説をおこない、後半は学生への演習・議論・課題作成などを行う。</p>
授業計画	<p>第1回 教育におけるICTの活用とこれまでの経緯と現在の状況について 全9回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。教育におけるICTの活用について、これまでの経緯と現在の状況に触れ理解を深める。 【事前学習】 授業におけるICT活用について、自分の経験を整理しておいてください(授業の中で質問します)。文科省のHPより現在のICT活用の状況について調べておいてください。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、授業の中で最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第2回 一斉学習におけるICT活用の意義と実践について(演習を含む) 一斉学習におけるICT活用の意義と実践例を紹介し、題材をもとに演習をすることで、ICTの一斉学習における活用の効果と課題についての理解を深める。 【事前学習】 利用アプリ2種類(Teams Miro パドレット、canva)を事前に利用できるように学習しておいてください。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第3回 個別最適な学びと主体的・対話的で深い学びに対するICT活用の意義と実践について(演習を含む) 個別最適な学びや主体的・対話的で深い学びについて理解を深める。加えて、ICT活用との関係を考察し、演習を通して意義に対する理解を深める。 【事前学習】 文部科学省HPより、「個別最適な学び」と「主体的・対話的で深い学び」の意義と意味を調べておいてください。「令和の日本型学校教育の構築を目指して」の内容を確認しておいてください。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第4回 遠隔・オンライン教育の意義や関連するシステムの利用について(演習を含む) 遠隔教育の実践例を紹介し、Zoom等で擬似的に遠隔授業の演習を行う。演習後、コロナ禍におけるオンライン学習や本講義における実践を元に、遠隔・オンライン教育について議論することで、その意義や課題について考察する。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第5回 情報セキュリティ及び校務におけるICT活用の意義とその実践について(演習を含む) 情報セキュリティや校務の情報化について理解を深め、講義にて情報セキュリティとインターネットの特性について理解を深める。その後、議論にてICT活用の意義や課題についての理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第6回 情報モラルを含む情報活用能力の育成のための指導法について 情報モラルや校務の情報化(統合型校務支援システム)について理解を深め、演習にて情報モラルの育成や校務におけるICT活用の実践を行う。その後、議論にて校務におけるICT活用の意義や課題についての理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間)</p>

	<p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間) 情報通信技術を活用した具体的な教材の利用及び作成について これまで学んだ内容を基に、テーマを決め、具体的な教材の利用方法を考案又は教材の作成を行う。作成を通して情報通信技術を利用した教材に対する理解を深める。</p> <p>【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間)</p> <p>【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第8回 情報通信技術を活用した具体的な指導法について 前時間で作成した教材の発表を行う。教材内容の共有を行うことでICT活用の意義や効果について理解を深める。 【事前学習】 前回の授業で通知します。(1時間) 【事後学習】 集中講義形式のため、最終回後に記載する。(1時間)</p> <p>第9回 定期試験 これまでの講義で学んだ事をチェックする。形式はCBT (Computer Based Test) で行う。 【事前学習】 これまでの内容の復習をしてください。(1時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講師が授業中に配布する資料をテキストとして用いる。
参考書	<p>各回の授業で提示する。</p> <p>ICT教育環境整備ハンドブック (一般社団法人日本教育情報化振興会)</p> <p>『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示 文部科学省)</p> <p>『高等学校学習指導要領』(平成30年3月公示 文部科学省)</p>
評価方法	<p>課題 (20%)、授業態度及び授業への参加度 (50%)</p> <p>定期試験 (30%)</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) -：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	コンピュータ教室で実施予定です。PCを利用することを前提としているので、タッチタイピング(キーボードを見ないで入力する)が可能である必要があります。又、課題等を返却する際にメールを利用します。PCからデータを送付できるメールアドレスを取得する必要があります。
オフィスアワー	質問については、次のメールアドレスまで nakachin@open.ed.jp
課題に対するフィードバック方法	課題については配布・フィードバックを電子メールにて行います。レポートについては基本的にデジタルデータで提出ですが、紙で提出(一部)の場合は提出物をスキャンしてデジタルデータにした後、メールにて返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	教職科目(必修科目)
担当教員			
岡本 泰弘			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC204		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】生徒指導の基礎的な理論、指導・支援の実際について学び、多様な個性をもつ生徒に対応することができる。</p> <p>【到達目標】生徒指導の基礎について理解するとともに、学校現場でのいじめや不登校、暴力行為、少年非行、発達障害、キャリア教育等の生徒指導上の課題に対して、効果的な指導・支援の在り方を考え、主体的に授業に臨むことができる。</p>
授業の概要	<p>生徒指導は、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと児童生徒が自主的・主体的に成長や発達を支える教育活動である。現在、学校教育現場では、いじめや不登校、暴力行為、少年非行、発達障害、精神疾患等、様々な教育課題が山積している。また、進路指導及びキャリア教育の必要性も年々高まってきている。この授業では、これらの生徒指導の課題の背景と対応等の即応的・継続的(リアクティブ)生徒指導を学んでいくとともに、常態的・先行的(プロアクティブ)生徒指導について考えていく。実際の教育現場を想定し、アクティブ・ラーニングの観点から、指導・支援の在り方をペアワークや集団討論、DVD視聴後の討論、ロールプレイングやロールレタリング等を通して実践的な指導力の基礎を養っていくこととする。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーションー生徒指導とはー ※エゴグラムの実施 授業の学び方と生徒指導に携わる者としての自己の気づきを図る。</p> <p>【事前学習】小・中・高等学校における生徒指導について振り返り、授業に参加する。(2時間) 【事後学習】今後学んでいく生徒指導について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第2回 生徒指導の基礎①<生徒指導の定義と目的> 生徒指導の基礎として、生徒指導の定義、目的、実践上の視点、関連性について学習する。</p> <p>【事前学習】生徒指導の定義と目的について調べてくる。(2時間) 【事後学習】生徒指導の定義、目的、実践上の視点、関連性について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第3回 生徒指導の基礎②<生徒指導の構造> 生徒指導の基礎として、生徒指導の構造[発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導(課題未然防止教育、課題早期発見対応)、困難課題対応的生徒指導について学習する。</p> <p>【事前学習】生徒指導の構造について調べてくる。(2時間) 【事後学習】生徒指導の構造[発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導(課題未然防止教育、課題早期発見対応)、困難課題対応的生徒指導について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第4回 生徒指導の基礎③<生徒指導の方法> 生徒指導の基礎として、生徒指導の方法(児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チーム支援による組織的対応、生徒指導の基盤、生徒指導の取組上の留意点)について学習する。</p> <p>【事前学習】生徒指導の方法について調べてくる。(2時間) 【事後学習】生徒指導の方法(児童生徒理解、集団指導と個別指導、ガイダンスとカウンセリング、チーム支援による組織的対応、生徒指導の基盤、生徒指導の取組上の留意点)について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第5回 生徒指導と教育課程 生徒指導と教育課程(教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動)との関連について学習する。</p> <p>【事前学習】生徒指導と教育課程について調べてくる。(2時間) 【事後学習】生徒指導と教育課程(教科、道徳科、総合的な学習の時間、特別活動)との関連について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第6回 生徒指導と教育相談 生徒指導と教育相談(基本的な考え方、全校的展開、カウンセリング技法)について学習する。</p> <p>【事前学習】生徒指導と教育相談について調べてくる。(2時間) 【事後学習】生徒指導と教育相談(基本的な考え方、全校的展開、カウンセリング技法)について振り返って学習する。(2時間)</p> <p>第7回 いじめについてー理論と指導の実際ー ※ロールレタリングの実施 いじめについて理論(現状、定義、重大事態等)や指導の実際(発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導(課題未然防止教育、課題早期発見対応)、困難課題対応的生徒指導)から学習する。</p> <p>【事前学習】いじめとは何か、いじめの現状について調べてくる。(2時間)</p>

	<p>【事後学習】いじめについて理論（現状、定義、重大事態等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）</p>
第8回	<p>不登校について－理論と指導の実際－ ※集団討議 不登校について理論（現状、定義、支援目標等）や支援の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から学習する。</p> <p>【事前学習】不登校の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】不登校について理論（現状、定義、支援目標等）や支援の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）</p>
第9回	<p>暴力行為と少年非行について－理論と指導の実際－ 暴力行為と少年非行について理論（現状、定義、視点等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から学習する。</p> <p>【事前学習】暴力行為と少年非行の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】暴力行為と少年非行について理論（現状、定義、視点等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）</p>
第10回	<p>発達障害と精神疾患について－理論と指導の実際－ ※発達障害疑似体験 発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から学習する。</p> <p>【事前学習】発達障害と精神疾患の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から振り返って学習する。（2時間）</p>
第11回	<p>児童虐待と自殺について－理論と指導の実際－ 児童虐待と自殺について理論（現状、定義等）や支援の実際（基本的構え、体制等）から学習する。</p> <p>【事前学習】発達障害と精神疾患の現状について調べてくる。（2時間） 【事後学習】発達障害と精神疾患について理論（現状、定義、課題等）や指導の実際（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導（課題未然防止教育、課題早期発見対応）、困難課題対応的生徒指導）から振り返って学習する。（2時間）</p>
第12回	<p>インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題 ※集団討議 インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について学習する。</p> <p>【事前学習】インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について調べてくる。（2時間） 【事後学習】インターネット・携帯電話に関する問題、性に関する課題について振り返って学習する。（2時間）</p>
第13回	<p>生徒指導における進路指導・キャリア教育① ※集団討議 進路指導について理論（定義、諸活動等）や指導の実際から学習する。</p> <p>【事前学習】小・中・高等学校に受けた進路指導について振り返って考えてくる。（2時間） 【事後学習】進路指導について理論（定義、諸活動等）や指導の実際について振り返って学習する。（2時間）</p>
第14回	<p>生徒指導における進路指導・キャリア教育② キャリア教育について理論（定義、育成すべき能力等）や指導の実際から学習する。</p> <p>【事前学習】小・中・高等学校に受けたキャリア教育について振り返って考えてくる。（2時間） 【事後学習】キャリア教育について理論（定義、育成すべき能力等）や指導の実際について振り返って学習する。（2時間）</p>
第15回	<p>チーム学校による生徒指導体制 チーム学校における危機管理体制、法制度等の運用体制について学習する。</p> <p>【事前学習】小・中・高等学校に受けたキャリア教育について振り返って考えてくる。（2時間） 【事後学習】チーム学校における危機管理体制、法制度等の運用体制について振り返って学習する。（2時間）</p>
第16回	定期試験
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	生徒指導提要（令和4年12月 文部科学省）

参考書	特になし
評価方法	評価は、期末テスト 50%、授業内レポート 50%とし、総合的にみて行う。3分の1以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。
評価基準	成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること .. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	教師になったことを想定し、講義の臨んでください。
オフィスアワー	授業や課題に関する問い合わせは、随時メールで行ってください。 メールアドレス okamoto@edu.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	次回の授業で返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
柳田 正豪			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC306		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	スクールカウンセラーの役割・必要性に加え、教育相談を進める際の基礎的知識についても理解を深める。カウンセリングマインドを活かし教育相談に従事するスキルを学ぶ。
授業の概要	現在、学校の教育現場では、実にさまざまな問題が存在する。学力低下や学業不振に限らず、不登校、いじめ、うつ、自殺があり、さらには家庭内暴力等の社会的問題もある。こうした問題に対する技術や知識を学ぶことは、現代の教員には必須であり、同時にそれはカウンセリングを学ぶことにもある。また青年期にみられる発達障害や精神疾患も学び、その症状・原因・対策を学ぶ。基本的なカウンセリングスキルを学び、お互いにカウンセリングのロールプレイも実践する。教員を目指す者は、生徒の心理的課題や教育的課題を捉えた上で、自らの課題に気づき、教育者としての資質を高める。
授業計画	<p>第1回</p> <p>教育相談における学校カウンセリングとは。自分自身を理解しよう。 オリエンテーション。この授業で求めている事や成績の付け方について説明をする。 現在の教育現場で起きている問題点を提示しながら、学校に求められているのが何か一緒に考える。そのうえで、教育相談と学校カウンセリングとは何かを学ぶ。 授業後半では、自分自身への理解を深めるための心理テストを実施する。</p> <p>「課題：学校カウンセリングとは何か」をリサーチしてレポートを提出する。 以下のキーワードをレポートに含めること。 1. 学校カウンセリングの存在理由 2. 学校カウンセリングのメリット・デメリット 3. 海外の学校カウンセリングとの相違点 4. 調べて学んだ自身の感想・ふりかえり 注：参考文献にはネットも利用していいが、信頼性の高い記事を見つけること。</p> <p>【事前学習】 シラバスの確認 1.5時間 【事後学習】 配布資料を読む 3.5時間</p> <p>第2回</p> <p>教育相談における学校カウンセリングの必要性 教育相談における学校カウンセリングの機能そしてニーズについて学ぶ。</p> <p>従来の学習指導や生徒指導ではいま学校で起きている様々な問題に対応できなくなってきた。そこでこれらの対応について、学級担任ができること、カウンセラーができることについて分けて考えてみる。</p> <p>教科書1-16。 配布資料。</p> <p>【事前学習】 配布資料と教科書を読む 2時間 【事後学習】 クイズのための復習 2時間</p> <p>第3回</p> <p>学校教育相談とカウンセリングの役割 教育相談における学校カウンセリングの役割について学ぶ。</p> <p>前回の授業では、学校教育相談と学校カウンセリングの必要性について学んだ。この授業では、担任による学校教育相談のメリットとデメリット、学校カウンセラーのメリットとデメリットについて深く学んでいく。</p> <p>教科書1-16。 配布資料。</p> <p>【事前学習】 配布資料と教科書を読む 2時間 【事後学習】 クイズのための復習 2時間</p> <p>第4回</p> <p>学校における不適応行動とその理解および対応 (1) 発達障害 不適応行動とその行動及び対応の第1回目は発達障害について学ぶ。 今回は自閉症スペクトラム障害と注意欠如多動性障害に焦点をあてる。自閉症スペクトラム障害では、さらに自閉症とアスペルガー症候群の違いについて学ぶ。授業内では事例を出し、対応策を皆で考えてもらう。</p> <p>教科書44-60。</p> <p>【事前学習】 配布資料を読む 2時間 【事後学習】 クイズのための復習 2時間</p> <p>第5回</p> <p>学校における不適応行動とその理解および対応 (2) 気分障害・不安障害 第2回目は気分障害と不安障害について学ぶ。 不安障害のうつ病に焦点をあてる。現在の中学生や高校生にはうつ病にかかる生徒も少なくはない。正しいうつ病に関する知識を身につける。授業内では事例を出し、対応策を皆で考えてもら</p>

う。

教科書44-60。

第6回	<p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>学校における不適応行動とその理解および対応（3）いじめ・不登校・虐待・非行不登校といじめについて学ぶ。 前半では不登校がおきる原因やメカニズムについて学び、不登校のタイプ、不登校の生徒に対する支援策などについても学ぶ。後半ではいじめの構造・成立についての理解し、いじめへの介入策について学ぶ。</p>
第7回	<p>教科書61-91。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>カウンセリングスキルの体験学習（1）共感スキル カウンセリングの体験学習1回目では、言語スキルの「受容」、「繰り返し」、「言い換え」の3スキルを学んでもらう。まずスキルの使い方を学び、その後ペアで3スキルを使ったロールプレーを行う。</p>
第8回	<p>教科書17-30。 配布資料。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>カウンセリングスキルの体験学習（2）信頼関係づくり カウンセリングの体験学習2回目では、言語スキルの「支持」と「質問」の2スキルを学んでもらう。その他に非言語スキルの意味とその解釈について深く学んでもらう。これらの言語と非言語スキルは、話し相手との信頼関係づくりに大きく影響するので、ロールプレーを繰り返しながら、覚えてもらう。</p>
第9回	<p>教科書17-30。 配布資料。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>こころの問題の種類と教育相談（1）性的マイノリティについて（LGBT等） セクシャリティの意味やマジョリティとマイノリティの概念を理解してもらおう。また性別違和とトランスジェンダーの違いについても理解を深めてもらう。事例を出しながら、学校における支援と課題についても学んでもらう。</p>
第10回	<p>配布資料。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>こころの問題の種類と教育相談（2）なごの音が聞こえる（統合失調症） 精神疾患の中でも深刻な精神病である統合失調症について学ぶ。発症は早く中学生から始まることもあり、早期発見・介入が必要であるとうことを学んでもらう。</p>
第11回	<p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>教育相談と事例研究：外部の教育相談関係機関とのつながり 学校は他機関との連携を常に意識しないといけない。生徒は3年後には卒業し進学していくので、進学先から情報提供も求められれば、情報を開示しなければならない。進学校との連携の重要性を学ぶ。また進学校だけでなく、地域に根付いた医療機関や支援団体の存在についても学ぶ。</p>
第12回	<p>教科書184-199。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>教育相談と事例研究：組織的な取り組み 学級で起こった問題に対し、学級担任だけで対応するには限度がある。そこで学年主任や保健室、またはスクールカウンセラー等を活用した組織的介入について理解を深めてもらう。校内だけでなく、先週学んだ外部の教育相談関係機関との取り組みも応用する。</p>
第13回	<p>教科書169-182。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p> <p>保護者に対する援助 親・保護者の役割について学ぶ。 保護者と信頼関係を築くことで家庭内・学校内での諸問題に対し、保護者から援助を得られることを学ぶ。親子関係のシステム論も学ぶ。</p>
	<p>教科書151-168。</p> <p>【事前学習】配布資料を読む 2時間 【事後学習】クイズのための復習 2時間</p>

	<p>第14回 心理検査とその利用 多くの心理検査は臨床心理士やスクールカウンセラーでしか扱えない。テスト結果の解釈には心理学・臨床心理学の知識が必要だからである。しかし、学校教員でも実施できる心理テストがあるので、その使い方と導入方法について学ぶ。</p> <p>配布資料。</p> <p>【事前学習】 配布資料を読む 2時間 【事後学習】 クイズのための復習 2時間</p> <p>第15回 全体の振り返り 今学期学んだ単元を最初から復習する。毎回授業で出したクイズの回答を確認しながら、期末試験に出る範囲について触れる。</p> <p>【事前学習】 配布資料を読む 2時間 【事後学習】 期末試験の復習 2時間</p> <p>第16回 期末試験 今までのまとめ。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「学校教育相談」 一丸 藤太郎 MINERVA教職講座 ミネルヴァ書房 2002年
参考書	「実践ハンドブック 学校カウンセリングの考え方・進め方」 松原達哉 教育開発研究所 1993年
評価方法	授業への参加度 (10%)、毎回のクイズ (30%)、期末試験 (40%)、課題 (20%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) -：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>.. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	主体的な参加を高く評価します。
オフィスアワー	柳田研究室 水曜日
課題に対するフィードバック方法	課題及び授業内の小テストは授業内で解答し、その翌週に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	1単位(0-2)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC401		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】事前研究では、教育実習を行い、教育活動に参画する自覚を高める。事後研究では、自身の課題を省察する。</p> <p>【達成目標】1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。5. 実習校と連絡をとり、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。</p>
授業の概要	<p>(事前研究) 教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとしたい。</p> <p>(事後研究) 教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種(中学校・高等学校)、学習環境(地域差、学習母集団)等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。</p>
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明、実習に向けて、個別面談 スケジュールの確認、本講義で学ぶことの概要説明を行う。各自の教育実習に向けての取り組み状況を確認する。 【事前学習】教育実習に向けて取り組んでいる現状を確認し、質問事項等を考えておく。(30分) 【事後学習】今後の授業計画を踏まえ、教育実習に向けた各自のスケジュールを組み立てる。(30分)</p> <p>第2回 学校訪問について、教育実習レポート、教員採用試験について 学校訪問の際の身だしなみ、確認すべき事項、心構え、等について確認する。 【事前学習】学校訪問に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】教育実習レポートを読み、課題レポートに取り組む。(45分)</p> <p>第3回 実習前に準備すべきこと 教材研究、アクティビティ、授業の準備、学級・HRの状況、指導教員との連絡等、実習前に準備することを確認する。 【事前学習】教育実習に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】配布した資料に目を通し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(45分)</p> <p>第4回 講話：高等学校の現場から 高等学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】高等学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題(レポート)に取り組む。(45分)</p> <p>第5回 講話：中学校の現場から 中学校で英語を担当する教員をゲストスピーカーに招いて、教育実習の心構えを講義していただく。 【事前学習】中学校における教員の仕事に関する質問事項をまとめておく。(15分) 【事後学習】講話の内容を踏まえ、課題(レポート)に取り組む。(45分)</p> <p>第6回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、担当教員からのレクチャー(特に生徒指導、HR経営に関して)。 【事前学習】テキストの指定された箇所を読み、質疑応答に備え質問を考えておく。(30分) 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。(30分)</p> <p>第7回 教育実習についての基礎的な知識の確認 テキスト『教育実習の常識』を用いて、受講者にミニレクチャーを行ってもらおう。 【事前学習】発表担当箇所を重点的にテキストを読み、発表の準備を行う。(45分) 【事後学習】授業で触れた重要な留意点を振り返り、見直しておく。(15分)</p> <p>第8回 教育実習中間報告会① 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う(受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う)。 【事前学習】報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分)</p>

第9回	<p>教育実習中間報告会② 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。 【事前学習】 報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】 他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分)</p>
第10回	<p>教育実習中間報告会③ 全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う。 【事前学習】 報告する内容、共有を図りたい内容について考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】 他の実習生の状況やフィードバックを踏まえ、教育実習の充実に役立てる。(15分)</p>
第11回	<p>教育実習反省会① 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど(受講者が12人であれば3コマ、15人であれば4コマ行う)。 【事前学習】 教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】 コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分)</p>
第12回	<p>教育実習反省会② 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。 【事前学習】 教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】 コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分)</p>
第13回	<p>教育実習反省会③ 全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。1人30分ほど。 【事前学習】 教育実習を振り返り、発表の観点に沿って報告する内容を考え、まとめておく。(45分) 【事後学習】 コメントやフィードバックを踏まえ、今後の教育実践に活かす。(15分)</p>
第14回	<p>教育実習レポートの作成 教育実習の内容を、クラス内でシェアし、その後、レポートにすることで何度も反芻してもらおう。教育実習という貴重な体験をやりっぱなしの経験に終わらせることなく、経験の意味を吟味することに努める。 【事前学習】 教育実習を振り返り、レポート作成要領に沿って、レポート執筆に取り組む。(45分) 【事後学習】 それぞれのレポートに目を通し、教育実習で得た学びを再度振り返り、学びの深化を図る。(15分)</p>
第15回	<p>教育実習成果報告会 1・2・3年生の教職履修性に向けた教育実習成果報告会を行うことにより、自身の教育実習の意味を再確認する。 【事前学習】 報告会の配布資料作成に加え、発表要領を踏まえ、報告会の準備に取り組む。(45分) 【事後学習】 コメントやフィードバックを踏まえ、教育実習を振り返り、総括を行う。(15分)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	中等教育実習「事前・事後指導」－教育実習で成長するために－(ジダイ社)2017
参考書	特になし
評価方法	1. 授業態度・授業への参加度(40%) 2. 発表・討議参加(30%) 3. レポート・提出物(30%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ・ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	<p>1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。</p> <p>2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。</p>
オフィスアワー	大城：水曜日の3限目 大城研究室(西研4-5)

課題に対する フィードバック方 法	課題はコメントを付し、授業中に返却する。
-------------------------	----------------------

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	4単位	教職科目（必修科目）
担当教員			
大城 直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC402		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 中学校において教育実習を行う。教職課程での学びを中学校の現場で確認し、自身の課題を発見する。</p> <p>【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能，教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握，学級経営，課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み，態度に示すことができる。（勤怠状況，実習への意欲，学級事務等の実務能力等）</p>
授業の概要	<p>教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。</p>
授業計画	<p>1. 教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。</p> <p>(1) 学校組織 (2) 生徒の実態把握 (3) 生徒指導 (4) 教科指導 (5) 「道徳」の指導 (6) 学級経営 (7) 特別活動 (8) 諸表簿の扱い</p> <p>2. 教育実習の形態 教育実習は、主に、次の3つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。</p> <p>(1) 観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 (2) 参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 (3) 教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は10時間以上とする。</p> <p>3. 授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。</p> <p>(1) 学習環境はどのように整備されているか (2) どのような指導形態がとられているか (3) 教師の発問 (4) 生徒の発言、応答への対応</p> <p>4. 教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。</p> <p>【教科指導上の心得】 (1) 学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 (2) 授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 (3) 授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 (4) 授業の開始・終了時間を遵守する。</p> <p>5. 生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。</p> <p>【生徒指導上の心得】 (1) 実習校の生徒指導方針に従う (2) 生徒の名前をできるだけ早く覚える</p>

	<p>(3) 言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する (4) 生徒に対しては公平に接する (5) 生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない (6) 個人情報の扱いに注意を払う (7) 生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)</p>
参考書	土井進『テキスト中等教育実習「事前・事後指導」』ジダイ社、2017年
評価方法	1. 実習校指導教員の評価 (70%) 2. 実習レポート、等 (20%) 3. 研究授業、等 (10%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>.. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。</p>
オフィスアワー	大城：水曜日の3限目 大城研究室（西研4－5）
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の土曜日に行う中間報告会で助言を与える。事後報告会での報告へ口頭でフィードバックする。

講義科目名称： 教育実習（高校）

授業コード：

英文科目名称： Senior High School Teaching Practicum

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	2単位	教職科目（必修科目）
担当教員			
大城 直人			
授業形態：実習	ナンバリング：TTC403		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 高等学校において教育実習を行う。教職課程での学びを高等学校で確認し、自身の課題を発見する。</p> <p>【到達目標】 ①教科指導ができる。（教科や指導に関する知識・理解・技能、教材研究と授業準備） ②生徒指導ができる。（生徒理解と実態把握、学級経営、課外活動への関心） ③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。（動意状況、実習への意欲、学級事務等の実務能力）</p>
授業の概要	<p>教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質についての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は原則的に2週間（80時間）である。高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学における実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後指導」（1単位）を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。</p>
授業計画	<p>1. 教育実習の内容 学校教育において学ぶべき教育活動は広範囲に及ぶため、その全てを限られた実習期間で体験し理解することは困難である。従って、特に、次の領域について理解を深めることを目指す。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学校組織 (2) 生徒の実態把握 (3) 生徒指導 (4) 教科指導 (5) 学級経営 (6) 特別活動 (7) 諸表簿の扱い <p>2. 教育実習の形態 教育実習は、主に、次の3つの形態に分類され、相互に関連しながら段階的に実習が進められる。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 観察実習：生徒の学習活動や生活活動、教師の教育活動を観察し、学校教育の実態を総合的に理解する。 (2) 参加実習：実習指導教諭の指導の下、様々な教育活動に参加して現場の実際を学ぶ。 (3) 教壇実習：実習指導教諭の指導の下、教科指導を分担し、自ら教壇に立って授業を実践する。原則として、教壇実習は7時間以上とする。 <p>3. 授業参観 授業参観に際しては、漫然と参観するのではなく、研究的な姿勢をもって参観し、必要に応じて留意点を記録し、自身の教壇実習に生かせるよう心がける。特に、次の点に注目しながら観察を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) 学習環境はどのように整備されているか (2) どのような指導形態がとられているか (3) 教師の発問 (4) 生徒の発言、応答への対応 <p>4. 教科指導 授業観察、参観を経て、教壇実習を行い、教科指導の実際について体験的に学びを深める。指導に際しては、指導案を作成し、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方について理解を深める。</p> <p>【教科指導上の心得】 (1) 学習指導要領及び教科書を熟読し、学年・単元の目標を理解する。 (2) 授業（教壇実習）を行う場合、指導案を作成し、前日までに指導教諭に提出して指導を受ける。 (3) 授業終了後は、『実習記録簿』に内容を記録し、速やかに指導教諭の指導を受ける。 (4) 授業の開始・終了時間を遵守する。</p> <p>5. 生徒指導 生徒指導は全ての教育活動の基本とも言える。多様な教育活動の機会を通して生徒理解に努め、指導教諭の指導・助言を仰ぎながら、望ましい指導のあり方を体験的に習得する。</p> <p>【生徒指導上の心得】 (1) 実習校の生徒指導方針に従う (2) 生徒の名前をできるだけ早く覚える (3) 言動に注意し、生徒に対しては指導者としての態度を堅持する (4) 生徒に対しては公平に接する</p>

	<p>(5) 生徒の指導に際しては、体罰を加えてはならない</p> <p>(6) 個人情報の扱いに注意を払う</p> <p>(7) 生徒の健康・安全に気を配り、事故やけがが発生した場合は、速やかに実習校の教職員と連携する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>1. 実習校使用の英語教科書</p> <p>2. 実習校使用教科書のマニュアル</p> <p>3. その他（学校要覧、学校経営計画等）</p>
参考書	土井進『テキスト中等教育実習「事前・事後指導」』ジダイ社、2017年
評価方法	1. 実習校指導教員の評価（70%） 2. 実習レポート等（20%） 3. 研究授業等（10%）
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>.. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>.. 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>.. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>.. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1. 指定された「教職科目」を履修済であること。</p> <p>2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。</p> <p>3. その他、必要な要件をみたしていること。</p>
オフィスアワー	大城：水曜日の3限目 大城研究室（西研4-5）
課題に対するフィードバック方法	教育実習期間の中間報告会や、教育実習終了後の事後報告会で助言を与える。レポートなどはコメントを付し返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	4年	2単位(0-2)	教職科目(必修科目)
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC404		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。 【到達目標】①教員としての使命感や責任感、教育的愛情を高める。②社会性や対人関係能力を高める。③生徒理解を深め、学級経営の知識や技術を得る。④教科内容等の指導力を高める。</p>
授業の概要	<p>4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていききたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義の概要説明、自己の課題の確認(履修カルテを利用した個別面談) 授業の概要説明。教師に求められている4つの事項を確認する(①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項)。授業時間外に時間を設定し個別面談を行う。 【事前学習】教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、自らの強み・弱みについて考える。(1h) 【事後学習】教師に求められる4つの資質に照らし、自らの課題を明らかにする。(1h)</p> <p>第2回 学校フィールドワーク 2日間の学校フィールドワークの概要説明、グループ分け。実習小学校に関する事前学習。 【事前学習】小学校の現状について、各自の興味関心に照らし、情報収集を行う。(1h) 【事後学習】学校フィールドワークに向けて、準備を進める。(1h)</p> <p>第3回 学校フィールドワーク実習①観察実習、授業支援 学校フィールドワークでは、西原町内の小学校で観察実習、授業支援、学習支援などを行う。2日のうち、初日は観察実習、授業支援を行う。 【事前学習】学校フィールドワークの心得を確認し、フィールドワークに備える。(1h) 【事後学習】初日の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。(1h)</p> <p>第4回 学校フィールドワーク実習②小学校外国語活動の授業支援、学習支援 2日目は特に、小学校外国語活動(あるいは小学校英語)を観察し、授業に関わることで、中学校入学前の英語教育の状況を把握する。 【事前学習】小学校外国語活動について現況を調べ、フィールドワークに備える。(1h) 【事後学習】小学校外国語活動の体験を振り返り、記録簿作成に取り組む。(1h)</p> <p>第5回 学校フィールドワークの報告会 学校フィールドワークの状況、そこで学んだことを、グループ内で共有し、小学校と中学校の接続・連携について考察を深める。 【事前学習】2日間の体験を振り返り、報告会での発表に向けた準備を行う。(1h) 【事後学習】体験を共有し、コメントやフィードバックを踏まえ、小中連携の意義について理解を深める。(1h)</p> <p>第6回 生徒理解に関する授業(教育相談について) 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、教育相談、生徒指導についての現状をお話いただく。 【事前学習】教育相談、生徒指導に関して、質問事項を準備しておく。(1h) 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題(感想レポート)に取り組む。(1h)</p> <p>第7回 教科に関する授業(沖縄県の英語教育について) 沖縄県総合教育センター指導主事をゲストスピーカーとして招き、沖縄県の英語教育の課題についてお話いただく。 【事前学習】沖縄県の英語教育の現状に関して、質問事項を準備しておく。(1h) 【事後学習】講話の内容を振り返り、課題(感想レポート)に取り組む。(1h)</p> <p>第8回 教科に関する授業(アクティビティ研究) 教職課程履修中の3年生に対して、教育実習で行った英語授業のアクティビティの発表会を行う。 【事前学習】アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。(1h) 【事後学習】質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。(1h)</p> <p>第9回 教科に関する授業(アクティビティ研究の検討会)</p>

	<p>教職課程履修中の3年生とともに、英語授業におけるアクティビティの有効活用について話し合いを行う。 【事前学習】 アクティビティ集の作成を行い、報告会の発表に向けた準備を行う。(1h) 【事後学習】 質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。(1h)</p>
第10回	<p>教科に関する授業（研究授業） 特定のテーマを定めて研究授業を行う。教職課程履修中の3年生に生徒役をお願いし、その後、具体的な検討を行う。 【事前学習】 研究授業を振り返り、模擬授業に向けた準備を行う。(1h) 【事後学習】 質問、コメント、フィードバックを踏まえ、英語の指導法についてさらに探求を深める。(1h)</p>
第11回	<p>道徳に関する授業 エンカウンターを用いた道徳授業の研究授業を行い、その後にグループ討議を行う。 【事前学習】 配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 【事後学習】 様々な意見や考え方を振り返り、道徳に関する授業づくりの観点を見直す。(1h)</p>
第12回	<p>特別活動に関する授業 特別活動に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】 配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 【事後学習】 様々な意見や考え方を振り返り、特別活動における留意点を見直す。(1h)</p>
第13回	<p>学級経営・生徒理解に関する授業 学級経営・生徒理解に関する実践報告論文を輪読し、討議する。全国生活指導研究会の実践報告論文をテキストにする。 【事前学習】 配布資料に目を通し、内容理解を深めるとともに、質問事項を考えておく。(1h) 【事後学習】 様々な意見や考え方を振り返り、学級経営・生徒理解に関する留意点を見直す。(1h)</p>
第14回	<p>教職課程修了の報告会に向けての討議 教職課程修了の報告会に向けての事前の報告会、討議、準備を行う。 【事前学習】 教職課程におけるこれまでの学びを振り返り、総括を行う。(1h) 【事後学習】 報告会に向けての準備に関する留意点を確認する。(1h)</p>
第15回	<p>教職課程修了の報告会 教育実習を中心の4年間の教職課程で学んだことを、1・2・3年の教職課程履修者の前で報告してもらう。 【事前学習】 報告会に向けて、発表要領を踏まえ、準備を進める。(1h) 【事後学習】 コメントやフィードバックを踏まえ、教職課程における学びを振り返り、学びの昇華に努める。(1h)</p>
	<p>授業外学修時間60時間を必要とする。概ね、各授業の事前学習・事後学習に各1時間（合計30時間）、アクティビティ報告集・学校フィールドワーク報告集・教育実習報告会報告集の作成に各10時間（合計30時間）を想定している。</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	授業内容に応じて資料を配布
参考書	適宜提供 文部科学省『中学校学習指導要領』
評価方法	1. 授業態度・授業への参加度（40%） 2. 発表・討議参加（30%） 3. レポート・提出物（20%） 4. 個別面談（10%）
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ・ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ・ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること ・ 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	特になし
オフィスアワー	大城：月曜日・水曜日の3限目 大城研究室（西研4-5）

課題に対する フィードバック方 法	課題は授業中にコメントを付し返却する。プレゼン、発表などの課題は授業中に口頭でフィードバックする。
-------------------------	---